



ASK US としょかんミニガイド

ISI® Web of Scienceの使い方について
 「ISI Web of Science」は、米国ISI社が提供する引用文献データベースで、論文の書誌事項およびその被引用状況について調べることが出来るものです。筑波大学では「Science Citation Index Expanded®」(自然科学)、「Social Sciences Citation Index®」(社会科学)、「Arts & Humanities Citation Index®」(人文科学)の全分野について、1997年から2002年までに発表された文献の検索が可能です。附属図書館及び学内LANに設置された端末からご利用になれますが、「同時ユーザー数：10」ですので、ご注意ください。

ISI Web of KnowledgeはISI社提供のデータベースのためのプラットフォームです。ここがISI Web of Scienceへの入口になります。

検索方法としては「Full Search」と「Easy Search」がありますが、通常は「Full Search」を使うとよいでしょう。

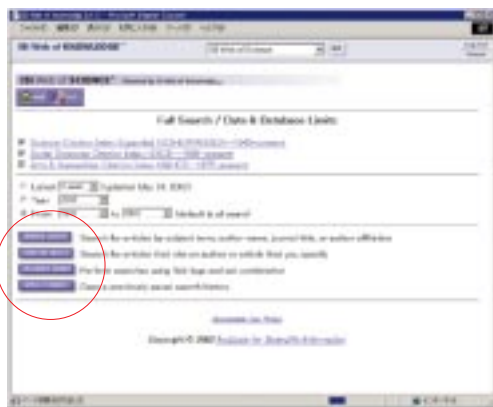


図1：Full Search画面

「Full Search」では検索対象分野と収録年を設定し、次の検索方法を選択します。(図1)

General Search：一般検索

Cited Reference Search：

引用索引検索と呼ばれるもので入力文献情報についてその被引用回数や引用している論文情報が確認できる。

Advanced Search：

検索履歴を見ながら新たな検索をしたり、ある

いは履歴を利用して複合検索をすることが可能である。但し、履歴と単語検索とを同一入力欄で使うことは出来ないので予め検索集合を作る必要がある。

Combine Searches：

検索履歴にある集合を使つての検索式を実行出来る。

は両者とそれ以外の検索結果がそれぞれ履歴として反映されるので検索状況を確認しながらの絞り込みが容易に出来ます。また検索方法を切り替える際は画面上部のアイコンをクリックして下さい。

ここでは および について解説します。

General Search (一般検索) について



図2：General Search検索画面

「General Search」は、入力欄に各検索条件を入れて検索実行し(図2)、その検索結果のリストから任意の文献を選んでタイトル部分をクリックすることにより詳細情報を表示させます。ここではトランケーションとして「* = 語尾変化」「? = 1文字の語尾変化」があり、前方・中間一致としても使えます。また論理演算子は「and」「or」「not」が設定されているので、これらを使うことによって複合的な検索式を組み立てることが出来るのです。

詳細情報画面では、文献のタイトルや掲載誌名、ページ数等が記載されていますが、ISI Web of

Scienceの特徴として、画面上の特定箇所から様々な情報にリンクが張られています。

画面中程にある「Cited References:」では当該論文で使われた引用文献数が表示され、ここからその文献リストを参照出来ます。「Times Cited:」からは当該論文の被引用回数およびその文献リストと詳細についての情報が得られます。そして画面右上にある「Find Related Records」からは当該論文と同じ引用文献を引用している関連文献をたどることが出来、「Holdings」からは当館における論文掲載雑誌の所蔵状況が確認出来ます。

また、画面上に「VIEW FULL TEXT」ボタンのある場合はそこから本学で閲覧できるオンラインジャーナルの全文を表示させることも可能になっています。(図3)

以上の機能は「General Search」,「Cited Reference Search」どちらの詳細画面でも利用出来るものです。

このようにISI Web of Scienceには一つの論文からその引用・被引用文献のリンクを辿ることによって、ある特定分野の研究動向を探ることも可能な仕組みがあります。

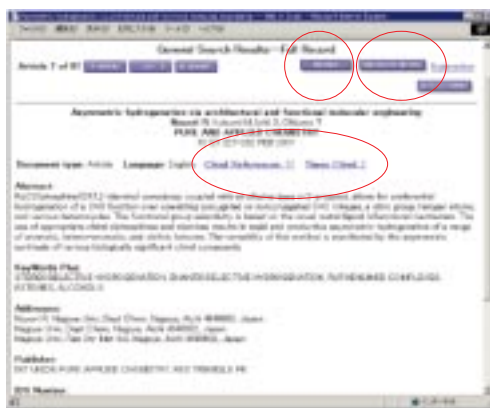


図3 : General Search検索結果詳細

Cited Reference Search (引用文献検索) について

ここでは検索条件に合致する論文がリストとして表示されます。入力条件および方法は「General Search」と同様に行います。「General Search」にはあくまで利用可能範囲についてのみ結果が表示されるのに対して、

「Cited Reference Search」には検索対象論文が1997年から2002年までに1回以上引用されていれば、そこから年代を溯っての被引用状況までも表示するという特徴があります。

ここでの「1997~2002年」とは本学での現在の利用可能範囲ですが、これ以前のものであってもその後の被引用状況によっては被引用回数情報を獲得することが可能になっています。

検索結果リストでは、リストの先頭の「Hits」によってその論文がいままでに引用された回数が一目で分かるようになっており、詳細情報については青く表示されたリストについてのみ表示させることが可能になっています。(図4)



図4 : Cited Reference Search検索結果

このようにして検索した結果は、リストのチェックボックスまたは詳細画面上で「Mark」することにより「Marked List」に保存され、出力形式を選んで自分の手元に置くことが出来ます。

検索終了時は画面右上にある「Log out」によりセッションを終了させましょう。画面を直接閉じてしまった場合、接続が切れたように見えても、実際はその後もしばらく接続が残っています。本学でのこのデータベースへの同時セッション数は10と限りがありますので終了方法についてご注意の上お使い下さい。

お問い合わせ先

検索方法：レファレンス係（内線2784）

接続方法：電子情報係（内線2470）